

連携交流事業としては一昨年に続き２度目、それ以前にも数度参加してきた。昭島市のイベントで目にする岩泉町のブース、郷土芸能祭りでの中野七頭舞など、これらを通して岩泉町に親しみ感を持っている市民の一人であると自負している。

今回の交流事業では、うれいら商店街の散策やそこにいた人たちとの会話、安家地区で土地の人から聞いた水害の様子、そして、専門家による龍泉洞見学ツアー、これらが印象深かった。

うれいら商店街の中に手仕事をメインにした店舗があり、そこで目にしたのは何年も寒風にさらし、表面に白い粉がふいているジャガイモ２０個ほどを紐に吊るしてあるものだった。聞けば、保存食のような意味合いもあったようだった。もともと売り物ではなかったにもかかわらず当方が関心を示したこともあって、はからずも貰えることになり、ありがたく頂戴した。

また、蔵の内装を手直ししたカフェがあったが時間が足りず入店は叶わなかった。この次にはぜひ訪れたい。

商店街すぐ横の清水川に架かる橋などは水害の痕跡が残っていたが、商店街ではその跡を見つけることはできなかった。清水川沿いの湧水地は水没したままだったが、ちょうどその場所に2尾のサケが産卵のためか遡上してきていた。そのサケに力強さを感じしばらくは目が離せなかった。

安家地区を散策し、あと100メートルでバスが待つ支所という場所で、70代半ばとおぼしき男性がたまたま家の外にいたので、声をかけて昨年の水害について聞いてみた。その家は川沿いの4本のそこそこ太い木が流され、床上まで水が来たが幸い家は流されなかったそうだ。話し足りなそうな様子だったが、バスの出発時刻が迫っていたので話を切り上げた。

「交流事業」という名のとおり、自ら交流

